

災害と環境に関する研究の実施状況(総合)

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 3.11 以降に、災害環境研究を立ち上げ、災害廃棄物や放射能対策に関する緊急展開を行いつつ、軌道修正を重ねてきた研究展開は見事で、特筆できる成果が多くもたらされている。災害環境研究という領域で維持すべき個別研究と福島県環境創造センターでの所掌研究に分かれていくのだろう。[年度・見込み]
- 研究体制の統合的なマネジメントが重要であろう。[年度]
- もっと一般の国民にその努力が広く知られるとよいのではないか。[年度]

今後への期待など

- 地震・津波・原発事故等に係る環境研究を通して、今後の更なる体系的な展開が待たれる環境研究の課題の発掘を行うとともに、今般の研究を通して得られた直接的な知見・情報に係る成果のリスク管理、危機管理への活用に繋ぐシステムティックな取り組みを期待したい。[見込み]
- 放射性物質の汚染については、ガバナンスといった概念を導入し、コミュニケーションをもっと充実される方向を指向すべきだろう。[見込み]
- 第4期の基盤となるセンターが自治体、地環研、地元大学、国立環境研究所と一体となって活動することを期待する。[見込み]

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 全体的に高く評価して頂き、ありがとうございます。今後も災害環境研究を総合的・統合的に推進したいと考えます。[年度・見込み]
- ② 第4期中長期計画において災害環境研究は、平成28年度に環境創造センター内に開設予定の福島支部を中心に、つくばの国環研本構と一体的に実施する予定です。そのために、研究項目の目的、特徴、手法、担当者等を考慮して、つくば本構と福島支部で実施する研究に切り分け、両者が連携した全所的な取り組みとして、産官学の関連機関と連携して、総合的な研究を推進したいと考えます。[見込み]
- ③ 4つの研究課題(3つの研究プログラム)間の連携は必ずしも十分でなく、統合的なマネジメントを指向しつつも未だ不十分な状況です。今後、被災地域の住民や行政と連携し、災害環境研究領域全体で地域環境システム研究を進めることなどを検討し、研究の統合化に努めます。[年度・見込み]
- ④ 本年度は、学会・講演会、著書・論文、福島県内での報告交流会や住民講座、刊行物、ホームページ等により研究成果を発信しました。しかし、まだ不十分と考えられますので、今後も引き続き、情報発信に努めます。[年度]
- ⑤ 当面は喫緊の課題である環境回復に貢献する研究(PG1)に力点を置きつつ、将来の復興に向けた環境創生研究(PG2)を並行して進め、早い段階で両者の連携による総合的研究を実施したいと考えています。更には、これらの研究の成果を活用し、相互に連携して、将来の大規模災害に備えた緊急時リスク管理、環境面での危機管理に向けた新たな災害環境マネジメント研究(PG3)に中長期的に取り組む予定です。これらを通してシステムティックな災害環境研究を目指します。[見込み]
- ⑥ ご指摘のように、放射能汚染問題を解決するためには、リスクガバナンスに基づき、行政、地元ファシリテータ、住民とのコミュニケーションが重要です。しかし、本研究所には、このような視点からの研究の蓄積が少ないこともあり、現在、汚染廃棄物研究やPG3で議論している所ではありますが、目に見える取り組みに至っていないのが実情です。今後、福島支部で進める研究を見据えて、地元自治体や被災地住民とのコミュニ

ケーションに基づくリスクガバナンス視点からの研究について検討していきたいと考えます。[見込み]